

私は9月11日から16日までの5泊6日でシンガポール研修に参加しました。今回の研修では、浅井先生、伏見先生をはじめ、現地でお会いしました方々、一緒に研修へ参加したメンバーのおかげでとても有意義なものとなりました。シンガポールでは、小学校から幼稚園・保育所・インターナショナルスクール等のたくさんの施設に見学に行かせていただきました。今回の研修で学んだこと、感じたことはたくさんあります。シンガポール研修に参加し、経験できたこと、とても幸せに思います。

1. 研修で学んだこと・感じたこと

シンガポールは多文化社会であるだけ、多様な宗教、言語が飛び交っていました。いろいろな人がいて当たり前であり、それは普通である社会に刺激を受けたことをはじめ、世界にはたくさんの方がいて、たくさんの文化があるなど身をもって感じることができました。学校見学では、日本にはない制度がたくさんあり、教育について勉強している私には、さまざまな教育制度について知ることができたと同時にいろいろな人に出会い話すことができ、とても勉強になりました。

一日目に見学に行かせていただきました、Marymount Convent School（小学校）では、子どもたちと接する時間も設けていただきました。日本の折り紙を折ってみようという授業を考え、みんなで取り組みました。子どもたちが折り紙を一生懸命に折って、作品を完成させてくれる姿に、私の言語がおぼつかなくても、折り紙の折り方を見て、手を動かしてやってくれている子どもたちの吸収の仕方に、私の方が何事にもやってみようと、挑戦していくことを再度確認させられました。小学校では先生たちの職員室の中も見せていただくことができ、日本とは違い一人ひとりのブースのような机の配置であり、新鮮さを感じました。また、授乳室のようなところも用意されており、女性の先生のための部屋があることで、女性の社会進出も行いやすいだろうと感じました。先生の一日の流れを聞いたのですが、朝の6時から18時過ぎくらいまで働いているようでした。労働時間は長いですが、人に教えるということにはそれくらい普通であり、この仕事が好きだからできることだと仰っていて教員という仕事の奥の深さ、子どもたちのために自分が工夫をすれば、子どもたちを伸ばしていけることができる喜びが感じられました。また、日本でも小学6年生が小学1年生をお世話してあげるように、シンガポールでもBodyシステムという4、5年生が1年生の決まった子のお世話をするシステムがあるようでした。シンガポールは休み時間が30分ありこの間に、ご飯の買い方や、学校の説明を上級の学年の子がしてあげて



いました。日本のように最高学年が教えないのかな？と思ったのですが、6年生は中学校を決める重要な大きなテストが控えているために、その下の学年がお世話をしてあげていました。こちらの小学校では、子どもたちの才能をみつけて伸ばす教育を実践しており、学校で学んだことを地域・社会に返す活動を行っている様子を聞くことができ、社会にでたらたくさんの人と関わりを持つようになるので、将来の可能性を深めていく活動にもなるのではないかと思います。私も、良いものを繋げていけるそういう活動をしていきたいと思いました。



二日目は、Invictus International Schoolに行かせていただきました。インターナショナルスクールでは、日本人の子どもたちも在籍していました、見せていただいた授業では、ポテトチップスとチョコレートの食べ比べをして、自分の持っている様々な単語で表現する活動を行っていました。発表するときにみんな椅子に座らないで、黒板の前に集合して地べたすわりで発表し合っていて、大勢の人に見られながらも自分の意見を言うことや、発表できるスタイルはプレゼンテーションには欠かせないものであり、表現することは大切だと思います。馴染みのある食べ物を取り入れ、興味関心を広げ、他のものはどうだろうと自分たちで他の問題解決や、表現することにつなげていけると思うと、こういう授業を行うことで楽しみながら、さまざまなことを学んでいける活動をする事ができると思い、このような授業づくりを考えていきたいと思いました。インターナショナルスクールで驚いたことは、先生たちは毎朝15分間踊るそうです。また、お昼ご飯はお弁当でも良いし、ケータリング注文でも良い！（子どもたちも同様）みたいで、日本では考えられないなと思いますが、とてもユニークなシステムを取り入れているなと思いました。

三日目はSt. James' Church Kindrgarten Harding campus(幼稚園)とLittle School House Outrun campus(保育園)に行かせていただきました。はじめに行った幼稚園では自然豊かな場所に幼稚園があり、子どもたちも自然に触れる機会があって良いなと思いました。日本でも安全の問題についてはよく取り上げられます。階段やちょっとした段差が所々にありましたので、先生に安全について配慮していることはありますか？と質問をしました。この質問は親御さんからされるみたいでしたが、世界に目を向けてください。どこにでも階段はありますよ、人は自然とともに生きていく中で安全についても考えていくでしょうと言われました。この園に子どもをいれるには、親がこの園に来て見て考えてもらうようにしているようでした。自然に触れさせることや、自分が体験して学ぶことはたくさんあると思います。この園では自らが学びたいと思ったことも先生がサポートして解決するために学んでいました。日本では遊びの中から学んでいくことを大切にしていますが、こちらの幼稚園では環境（自然や身の回りにあるもの、人）が先生となって目に見える形では学んでいないように見えるかもしれないが、周りから学び取っている。みて、きいて、感じることによって学ん

でいました。また、子どもたちには積極的に思ったこと感じたことを話してもらい、他の人と共有することを大切にしていました。関係性をつくとともに、信頼関係をつくり、互いに、尊敬する存在としてあるように子どもたちと接していると仰っていました。信頼関係や尊敬する存在としてあるためには長い期間が必要です。子どもたちにとって先生がそういう存在であることはとても大切なことだと思うので、そういう存在になれるような行動や子どもたちの見方をこれからも学んでいきたいと思いました。次の保育園では園で目的、目標、ゴールは定めているがそこに到達するまでの過程で先生が何をするのかは自由な裁量でできているようでした。日本の幼稚園では他のクラスとあまり変わらないように設定をしたりしていると思います。子どもたちのニーズに合わせて先生も多様的に考えて指導している様子に関心が持てました。教室の展示の一つに雨ができるまでと書かれた展示物がありました。雨ができるまでの雲や水の運びが書かれており、これは子どもたちが疑問に思ったことを勉強したと先生が仰っていました。小学校に入っていない子がこんな風に思うの？と疑問でしたが、先生のクラスでの様子や子どもたちの関心や学びたいと思ったことをさせてあげている様子に納得できました。こちらの保育園でも子どもたちと関わる機会をもたせていただいたのですが、みんなとっても元気で恥ずかしがりやさんも先生曰く、いないようで、こちらが恥ずかしがっていてもだめだなと思いました。小さいころから社会的に過ごす、大人との関わりをもつことで慣れていくと仰っていました。日本ではなかなか見られない自分から積極的に前にでて発表してくれる子どもたちがたくさんいて、日本でも小さいうちから人前にでて発表することをしていくと、少しずつ改善されるかなと思いました。

研修前は国によってどれくらい制度が違うのかなと漠然とした思いでしたが、実際に体験して、見せてもらうことで国によっても制度が違うけれども、団体ごとでも違いが感じられ、勉強になりました。

2. 今後取り組んでいきたいこと

保育園から小学校までたくさんの施設をみせていただきましたが、どこの



施設でも、言語については2か国語以上勉強していました。日本では2020年度から英語が教科になりますが、シンガポール研修で体験してみると、言語についてはまだまだ遅れてしまうのではないかと思います。子どもたちと関わる機会がたくさんありましたが、伝えたいと思っても英語にできない悲しさやもどかしさがあり、研修に参加して、私も英語のスキルアップをしたいと今まで以上に強く思うようになり、言語習得にむけてこれから勉強していきたいと思います。シンガポールで先生方と関わっていくと、子どもたちのために自らが最大限にできることをしてあげたいという先生方の思いが伝わってきました。私も、今自分ができることで人のためになることを積極的に行動に移していきたいと思います。

私は、食べ物について興味があるのですが、シンガポールでは中華やインド、アラブ系など多文化が集まるだけあり、様々なものを食べることができました。食文化に



については日本でも地方によって異なるのと同じように、現地に行ってみないとわからないことやその土地でしか食べられないものもあると思います。今回のシンガポール研修で食文化に触れることができたのも勉強になりました。

これからも世界に目をむけて、たくさんのお国を巡り、自分の経験にしていきたいと思います。今回のシンガポール研修では様々な経験ができました

が、自分が成長するためにもこれからも挑戦し続けていきたいです。